

19日のオバマ米大統領の  
ミャンマー訪問は歴史的だ  
った。特に人権抑圧を続け  
た軍政に対する抵抗の象徴  
だったアウン・サン・スー  
・チー氏との会談は変化を印  
象づけた。が、少数民族問題  
は相変わらず深刻であり、  
スー・チー氏に対する風向  
きの変化も感じさせる。

ミャンマーには約70%の  
ビルマ族のほかにも多くの少  
数民族がいる。カレン、カ  
チン、シャンなどは分離独  
立を求める。

彼らの人権状況は改善し  
ていないのに、国際社会は  
テイン・セイン政権を支援  
し投資が入り込む。人権活  
動家や少数民族はそう考え  
忘れられる不安を語る。

ミャンマー民主化はスー  
・チー氏の忍耐に負うこと  
ろが大きい。14年間にわた  
る自宅軟禁の様子を描いた  
映画「ひき裂かれた愛」は  
感動を誘う。スー・チー氏  
はいまは欧米に旅して発言  
できる。同じくノーベル平  
和賞を受賞した中国の劉曉  
波氏がいまだに投獄されて  
いるのとは対照的である。

だが外国で活動してきた  
スー・チー支持者のひとり  
は「スー・チー氏ひとりの  
待遇の変化で全体を判断し  
ないでほしい」と語る。少  
数民族の活動家も「失望し

# 「スー・チー神話」に陰り

## 鶏見風

た」と公言する。なぜか。

例えれば少数民族ロヒンギ  
ャ族の扱いだ。国際人権団  
体のヒューマン・ライツ・  
ウォッチ(HRW)による  
と、ミャンマー国内に約1  
00万人いるとされるロヒ  
ンギャは数十年にわたって  
ベンガル湾に面したラカイ  
ン州に住むが、1982年  
の市民権法によって事実上  
国籍を奪われた。

ロヒンギャはイスラム教  
徒であり、10月に仏教徒の  
アラカン族との間で衝突が  
起きた。大規模な焼き打ち  
もあり、同じイスラム国マ  
レーシアに逃れようとした  
ロヒンギャを乗せた船が沈  
没し、約130人が行方不  
明になったといわれる。

AFP時事によれば、ス  
と中国雲南省とを結ぶパイ  
ン

「道  
企業が中心的役割を果た  
す。これ以外の少数民族地  
域でも開発に絡む人権侵害  
が多く報告されている。

「検閲は少なくなった。で  
も、ある」と聞いた。

日本政府はミャンマーに  
対する債権を放棄し、大規  
模円借款を再開する。世界  
中のビジネススマンがこの国  
に熱い視線を送る。オバマ  
来訪も経済利益と無縁では  
ないが、米国も日本も「花  
(人権、民主化)より団子  
(経済利益)」とまでは思  
っていないはずである。

むしろ花を咲かせるため  
にも支援が必要と考えるの  
だろう。経済利益は当然重  
要だが、ミャンマー詣です  
る各国政府や企業に対して  
HRNは、多国籍企業が人  
権侵害に加担してはならな  
いとする「デューデリジ  
エンス義務」が国連で原則  
として確立しているに注意  
喚起する。

ミャンマーが中国の影響  
下に落ちるのを防ぐために  
は日本や米国による支援が  
要る。だが人権を忘れた支  
援に陥れば、人権、民族問  
題を抱えて栄える「小さな  
中国」ができる。

(特別編集委員  
伊奈久喜)



マレーシアでミャンマーの人権侵害に抗議するロヒンギャ族